

特集

上田薬剤師会による
薬剤師の地域活動



上田薬剤師会では日頃から、また、古くから、地域に貢献するさまざまな活動をしてきました。活動の意義について、またそれぞれの活動内容について、薬剤師の斉藤克也さんに聞きました。

「薬剤師の役割」を果たすために

薬剤師の仕事は、薬局の中だけではありません。〈薬剤師法〉の第1条にあるように、国民の健康な生活の確保に貢献するため、さまざまな取り組みが求められます。

上田薬剤師会では30年以上前から、地域の皆さんの健康に貢献するための活動に、組織として積極的に取り組んできました。この活動の「継続」が、薬剤師・薬局を地域に身近な存在として知ってもらうことにつながり、さらには地域包括ケアなどで他職種との連携に発展していくものとなるでしょう。

《薬剤師法第1条》調剤医薬品の供給その他薬事衛生をもつことによる国民の健康な生活を確保する

かかりつけ薬剤師・薬局として

厚生労働省が昨年発表した「患者のための薬局ビジョン」でも、これからはかかりつけ薬剤師・薬局が地域住民の在宅対応等を含むニーズに対応していくことが期待されています。

地域活動を通じて薬剤師・薬局が地域の皆さん、他職種の方々と「顔の見える関係」を構築していくことが、かかりつけ薬剤師・薬局の基盤になっていくと思います。

上田薬剤師会は、こんな地域活動をしています!

毒物劇物取扱者試験 準備講習会

毒物劇物取扱者試験を受ける方を対象に、薬剤師による講義や模擬試験を行います。受講者の合格率は高く、昨年の実績は合格率54.8%で、県平均39.9%を大きく上回りました。県内外からの参加があり、毎年好評のため、30年以上も開催しています。

週刊うえだ2015年8月VOL.23にて紹介



▲昨年の講習会

薬草・ハーブに親しむ会

毎年7月下旬に菅平高原で開催する、参加無料のイベント。薬草に詳しい薬科大教授の講演、薬草オリエンタリング、お香やハーブスティックなどの実演体験コーナー、薬味酒・薬膳粥の試食も人気です。昨年の参加は223名、今年で34回目です。今年も開催! 右上部告知参照

▲28年前の様子

JAうえだ有線放送 / JA丸子有線放送

毎月1回10分程度、地域の有線放送で身近な健康づくりに役立つお話をしています。上田薬剤師会の会員薬剤師が、代わる代わるのお話を担当しているので、あなたのかかりつけ薬剤師の声も聞こえてくるかも? 2014年1月VOL.4にて紹介

学校環境衛生検査

学校保健法に定められた学校薬剤師として、飲料水検査、プール水検査、環境衛生の指導などを行っています。

2014年7月VOL.10、2015年8月VOL.23にて紹介



健康教室への講師派遣

健康づくりのためのさまざまな講演会に、講師として会員薬剤師を派遣しています。上田市ことぶき大学、神科地域包括支援センターほか多数。随時対応いたしますので、ご要望がありましたらご連絡ください。

▲28年前の講義

薬物乱用防止啓発活動

地域の小中高校で、主に学校薬剤師が講師となって、タバコ、アルコール、危険ドラッグ、薬物乱用防止に関する授業をしています。昨年の受講者は6000名を超えました。

2014年4月VOL.7、2016年3月VOL.30掲載



▲18年前の授業風景

第34回 上田薬剤師会主催

「薬草とハーブに親しむ会」
開催! 参加無料



7月31日(日) 10:00~13:30 ※雨天決行

見て、触れて、味わう、自然の優しさ。菅平高原にある標高1400m、約10%の広大な敷地で、約40種類のハーブと100種類の薬草を楽しみましょう。

- 会場: 上田市菅平高原 長野県菅平薬草栽培試験地 (あづまや高原ホテル近く)
- 講演会: 「薬草入門 薬草について正しく知ろう」 (11:00~)
講師: 高野 昭人先生 (昭和薬科大学 薬用植物園 薬用植物資源研究室 教授)

- 実演コーナー
 - ・薬草オリエンタリング
 - ・ラベンダースティック教室
 - ・ハーブティー・薬味酒 試飲会
 - ・薬膳粥の試食会
 - ・お香作り体験コーナー



▲昨年の様子 ※詳しくは会員薬局または事務局までお問い合わせください

はい、お答えします!

Q. 仕事の都合で食事の時間が不規則になりがちです。薬は食後に飲むと言われることが多いのですが、食後であれば深夜でもいいのでしょうか? それとも薬を飲む時間は効果に関係があるのでしょか?

A. 基本的には指示通りに服用するのがベストですが、多くのお薬はどのタイミングで服用しても効果にそれほど大きな差はありません。無理に食後服用を守るよりは服用する時間帯を決めておいた方が、お薬の効果のばらつきがなくなるため良いと思われます。

ただし、中には飲むタイミングをしっかり守らないといけないお薬もありますので、まずはかかりつけの薬剤師・薬局に相談しましょう。

Q. 「生薬」とはどんな薬ですか? 「生」と付いているので何も手を加えていない薬のことですか?

A. 「生薬(しょうやく)」は、自然にあるものの形を変えず、そのまま利用したものです。植物由来だけでなく、鉱物や菌類・動物由来のものもあります。ただし、そのままでは水分を多く含み長期保存できないので、よく乾燥させ、水分を取り去ったものを使用します。また、薬の効きを加減するために、少し手を加えるものもあります。

このコーナーでは毎月、読者の方からの質問に薬剤師がお答えします。お薬に対する素朴な疑問、質問、なんでもお寄せください。

ハガキ 〒386-0012 上田市中央6-3-41
週刊うえだ「はい、お答えします!」係
メール weekly-ueda@po3.ueda.ne.jp
FAX 0268-22-6201



私たちは今後もこれらの取り組みを継続し、
24時間365日、地域のみなさんの健康づくりをお手伝いする
「かかりつけ薬剤師・薬局」を目指して活動してまいります。